

# 25年度の主な取組実績

## 鳥獣被害対策本部の開催

- ◆2回（5月22日、10月25日）

## 集落ぐるみによる「防護」+「追い払い」対策の推進

- ◆新たな重点支援地区の設置（10地区） ※防護柵設置5.1km
- ◆「絆ベスト」の普及 630着、退散鳥獣（ロケット花火発射装置）600個、絆ステッカー25枚
- ◆防護、追い払いに向けた研修活動（81回、延べ4,200人ほど）

## 地域住民による対策実行組織の育成

- ◆対策未実施の集落等を対象に研修会を開催（236集落、507人の集落リーダーを育成）

## 有害鳥獣捕獲の強化

- ◆基金を活用した緊急捕獲対策（14市町村；イノシシ2,622頭、シカ820頭、等）
- ◆ニホンジカの個体数調整のための捕獲（9市町；1,884頭）
- ◆カワウ調査捕獲の実施（シャープシューティング、300羽）

## ぎふジビエ衛生ガイドラインの策定

- ◆ガイドラインの普及に向けた説明会の開催（11/14関市、11/19大垣市）
- ◆処理加工施設の整備（9補事業、2件：揖斐川町、高山市）
- ◆県産ジビエのPR（・ジビエフェア：2月、3店舗、468人 ・料理教室：3月、31人）

## その他

- ・岐阜大学寄附研究部門との連携会議（3回）
- ・地域と連携した新たな捕獲体制のモデル事業（2件）

# 26年度の主な取組

## 1. 集落ぐるみによる防護対策について

### 新たな重点支援地区の設置

※現状32地区、H28までに計50地区を設置予定

### 平成25年度

#### 集落ぐるみの活動モデル

- ①各務原市
- ②関市
- ③富加町
- ④七宗町
- ⑤多治見市
- ⑥中津川市
- ⑦高山市
- ⑧下呂市

#### 地域特有の連携モデル

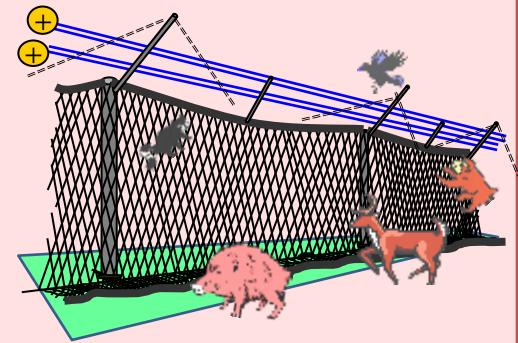
- ⑨大垣市・・・JR線路沿いでの侵入防止柵の設置
- ⑩揖斐川町・・・谷汲県営林及び周辺農地における猪鹿鳥無猿柵の設置

### 平成26年度 (予定)

#### 新たな地域におけるモデルの設置

猪鹿鳥無猿柵の設置と追い払い等、集落ぐるみで取り組むモデルの設置

- ◎関市、
- ◎東白川村、等  
8地区



※林政部における森林・環境税を活用した里山林整備事業との連携についても調整中

#### 効率的な捕獲との連携モデル 2地区

侵入防護柵の外側において、集落ぐるみでの効率的な捕獲を実施するモデル

※環境生活部と実施地区、方法等について調整中

## 2. 捕獲対策について

### 有害鳥獣捕獲の強化

複数の市町村、鳥獣被害対策実施隊等との連携により広域活動体制を構築。市町村域を越えた防護・捕獲活動をモデル的に実施し、県下へ波及。

**【新】鳥獣被害対策実施隊広域活動促進事業（県単、1,000千円）**

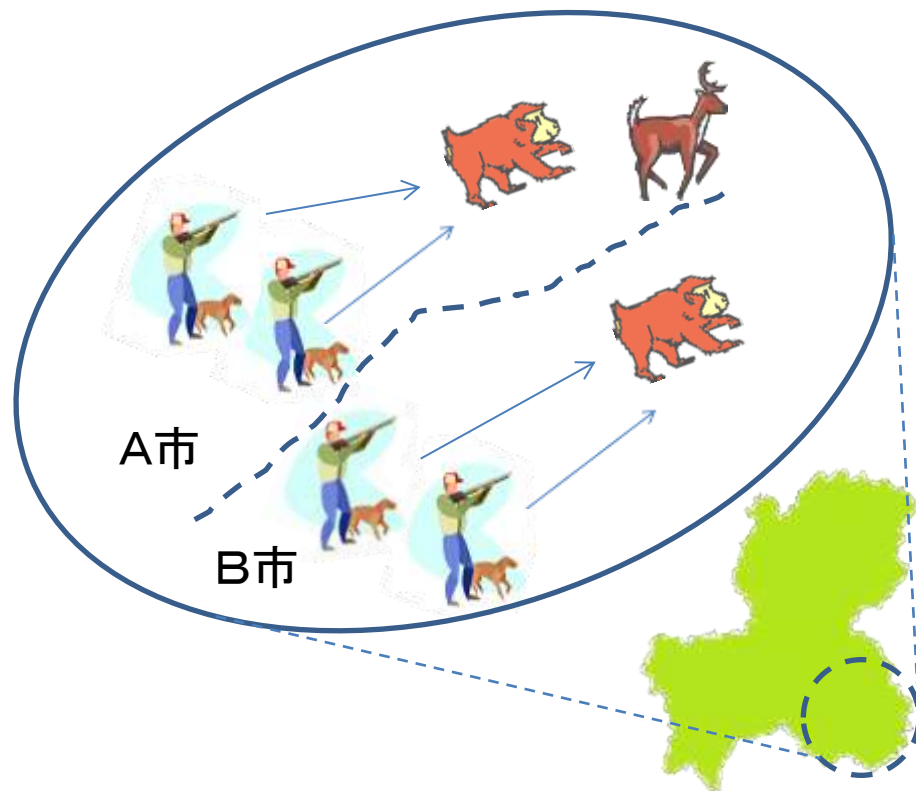
① 農業者や狩猟者等を対象に、広域的な防護・捕獲対策に係る研修会を開催

② 市町村間の連携による合同追い払いや捕獲等の活動をモデル的に実施

- ・捕獲班を編成しての広域捕獲の実施
- ・市町村合同による追い払い、枝打ち活動
- ・被害状況調査の実施

東濃地域における広域連携モデル

※市町村間および他県との連携



県の研究機関、農業者、資材メーカー等と連携し、農作業に被害を及ぼすシカを効率的に捕獲するための技術を開発。

現行システム  
(150万円/基)

- コスト高
- 重量資材で固定方式
- ネット資材が破損しやすい

新規システム  
(10万円程度/基)

## 【新】鳥獣被害対策技術研究開発事業 (県単、2,400千円)

※27年度までの2カ年を目途に実施

試験研究機関

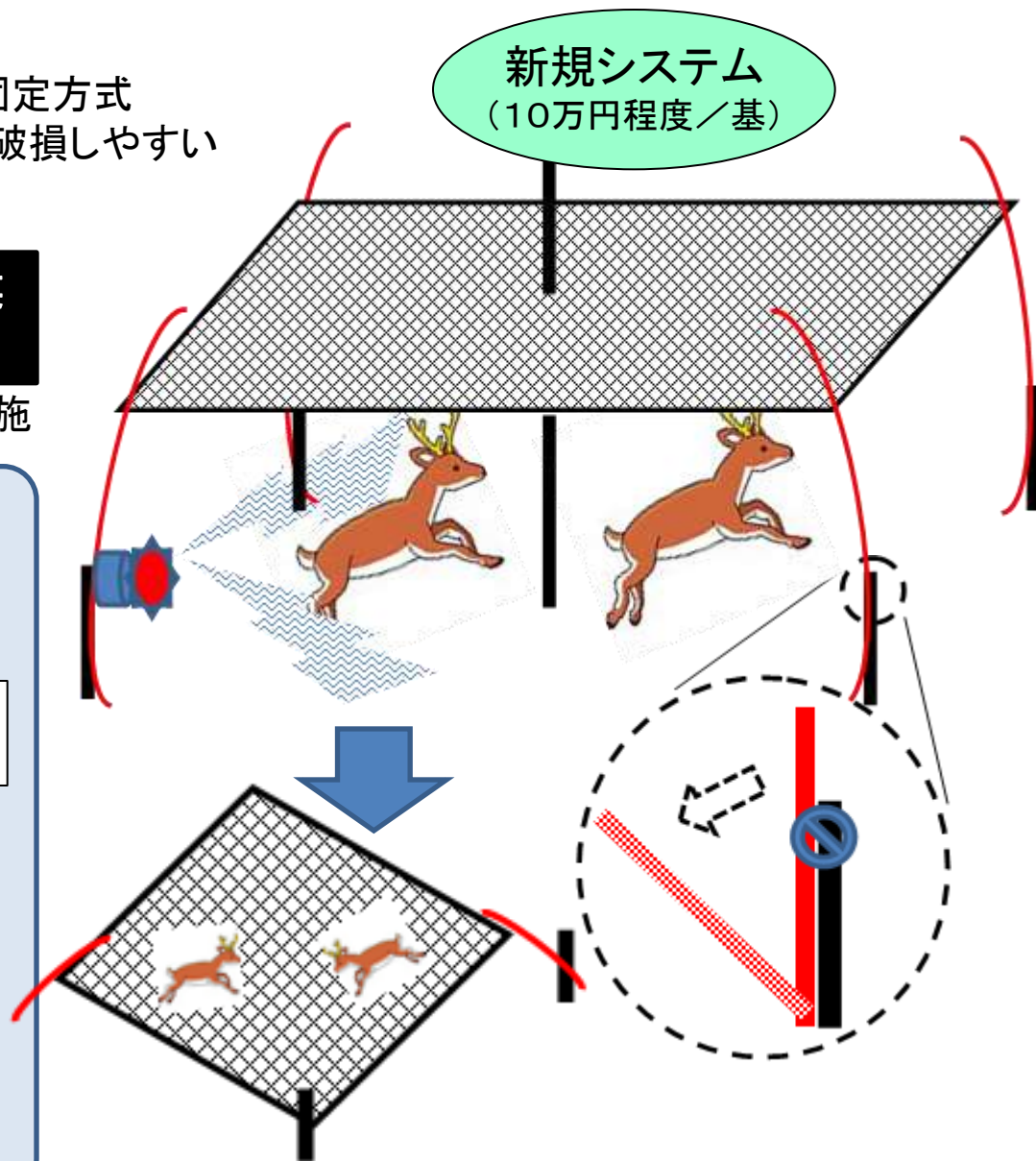
農村振興課  
(事務局)

資材メーカー

農業者

市町村

- ◆低コスト・省力で設置可能な捕獲システムの開発
- ◆わなへ誘引するための技術の開発
- ◆捕獲判定に係るシステムの開発
- ◆捕獲ネット資材の開発



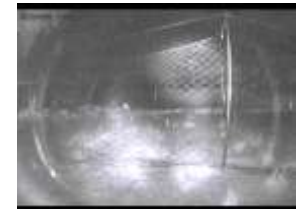
# 落とし網方式の捕獲方法 (現行システム)



支柱高は3m



観察映像



落下映像

※映像提供: 小浜ヤンマー株式会社

18m×18m、12本の支柱を使用



# ニホンジカの捕獲促進について

## (1)ニホンジカ個体数調整捕獲等への支援

### ○個体数調整を目的としたニホンジカの捕獲に対する補助(♂5千円/頭、♀1万円/頭)

H24 郡上市、下呂市 1,362頭

H25 郡上市、下呂市、大垣市、海津市、養老町、垂井町、揖斐川町、池田町、山県市 1,884頭

H26 ニホンジカの生息密度の高い13市町 4,000頭予定

### ○市町村職員の銃猟免許及び銃取得のための経費に対して助成

H24:郡上市 1名、H25:中津川市 5名、白川村 1名

H26:5名以上

### ○地域の人材を活用した捕獲体制の確立(モデル事業)

H25:2団体(メタセコイアの森の仲間たち、所産業)

H26:3団体(予定)

## 新(2)わな捕獲を中心とした捕獲体制整備モデル事業

○わな捕獲を中心としたニホンジカの捕獲体制を推進する地域に対し、資材の購入、人材育成など体制整備に必要な経費を助成

## 新(3)わな捕獲技術向上のための研修会の開催

○ニホンジカの捕獲を促進するために、くくりわなによる捕獲技術の向上に係る研修会を開催する。(開催を県猟友会に委託。400人受講予定)

【上伊那方式・誘引誘導型捕獲法の導入】

## 【新】わな捕獲を中心とした捕獲体制整備モデル事業 (清流の国森林・環境基金、19,500千円)

【ねらい】ニホンジカの捕獲を進めるために、地域住民が連携して、くくりわな等を活用した捕獲体制を整備する際に必要な経費を補助

【対象地区】・ニホンジカの生息密度が高い地域  
・地域住民が連携した捕獲が可能な地域

※ニホンジカ特定鳥獣保護管理計画で指定された市町を優先

大垣市、海津市、養老町、垂井町、関ヶ原町、揖斐川町、池田町、本巣市、山県市、関市、美濃市、郡上市、下呂市

### 【補助対象】

- ・くくりわな購入費
  - ・講習会開催費（講師謝礼、消耗品等）
  - ・野生動物確認用センサーカメラ購入費
  - ・狩猟免許取得費（免許講習会受講費、初心者講習会費等）
- その他



＜参考＞

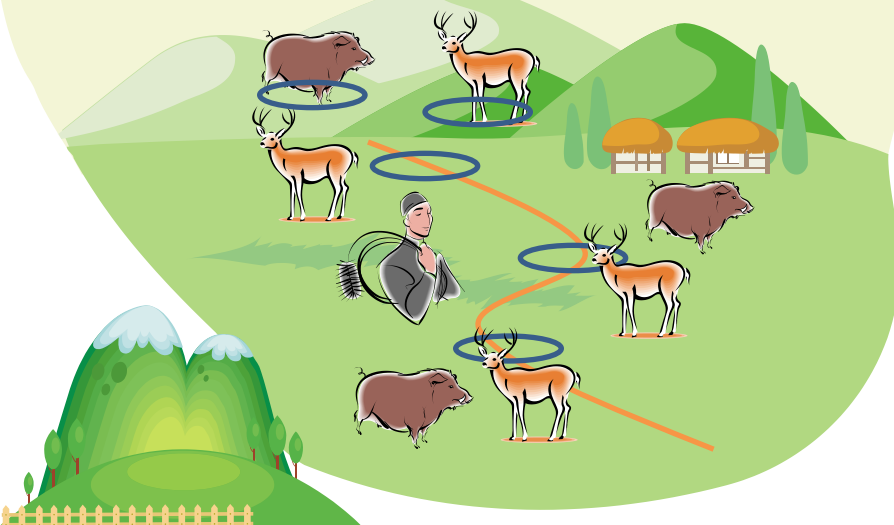
- 上伊那猟友会のわな
- ・市販の資材で、安価に作成・修理可能
  - ・大量捕獲に貢献

【主体】市町村、市町村地域協議会

【補助率】10／10 ただし、1地区150万円以内

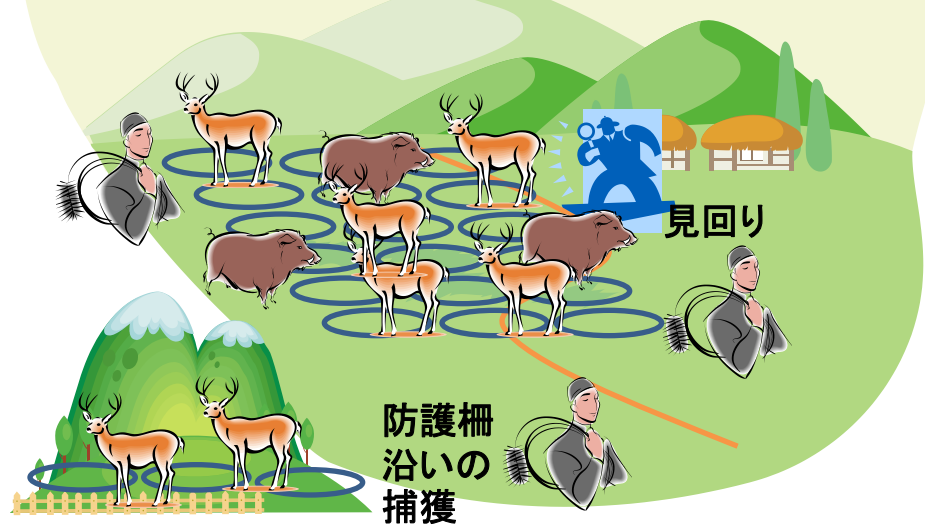
# 事業の概要(イメージ図)

## 事業実施前



- ◆委託を受けた猟友会員による捕獲体制  
→捕獲従事者の不足、技術の未伝承  
→「捕獲は猟友会の仕事」という意識
- ◆獣の通り道(獣道)にわなを設置  
→獣が通るのを待つ、限られた場所での捕獲
- ◆田・畑から離れた場所でのわな設置  
→加害獣が捕獲できない

## 事業実施後



- ◆集落の住民の連携による捕獲体制  
→参加者の増加、狩猟者の育成、技術の共有  
集落ぐるみの捕獲体制(見回り、追い出しの協力)  
→「地域で捕獲する」という意識の熟成
- ◆集落で獣がよく出没する箇所に複数のわなを設置  
→わなの個数を増やし、住民の協力により効率を上げる
- ◆集落内の防護柵沿いでのわな設置  
→加害獣を重点的に捕獲できる

地域ぐるみで捕獲を進め、獣害が減る実感を共有



# 【新】わな捕獲技術向上の推進

(清流の国森林・環境基金、4,200千円)

わな捕獲技術向上推進事業 中央研修会(4月15日~17日)

対象: 県猟友会 支部長等 76人

15日: 岐阜会場 28人、16日 郡上会場 20人、17日 白川町会場 28人

■上伊那猟友会長 竹入 正一氏  
「先進的な捕獲技法」



■岐阜大学助教 森部 絢嗣氏  
「誘引誘導型捕獲法」



■実技 上伊那猟友会 山田 勉氏「上伊那式くくりわなの設置」



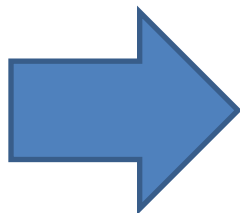
＜今後の予定＞

- ・受講者が講師となり、11月までに「地域研修」を7回開催
- ・約400人を養成し、捕獲効率を上げる

# ニホンジカの誘引誘導型捕獲法

(岐阜大学 森部 絢司 助教考案)

餌でシカを誘引し、予めセンサーカメラでシカの経路を把握し、誘導体の脇にわなを設置して捕獲効率を上げる。



シカ捕獲の瞬間の映像



複数捕獲の映像



捕獲後の止めさし映像

# 誘引誘導型捕獲法の実践

平成25年度の狩猟期に、経験の浅い狩猟者をアドバイス  
→郡上市・揖斐川町で研修後、捕獲数増を実現



実施例	罨免許所持者数	免許所持年数	使用わな	捕獲期間	成果(捕獲数)
揖斐川町	7名	1～3年目	くくりわな 箱わな	H25/11/15 ～H26/1/31	シカ70頭 イノシシ20頭
郡上市	3名	1～5年目	くくりわな 箱わな	1ヶ月間	シカ13頭 イノシシ1頭

揖斐川町内の狩猟者

【課題】 わなに動物が来ているが捕獲できない

【支援内容】

餌と誘導体の位置の変更を指導

→翌日イノシシ、翌々日シカの捕獲



揖斐川町

郡上市内の狩猟者

【課題】 なかなか捕獲できない

【支援内容】

誘引誘導型捕獲法を指導

→3名とも研修後1ヶ月以内にくくりわなで捕獲に成功



郡上市

## 平成26年度の研究内容

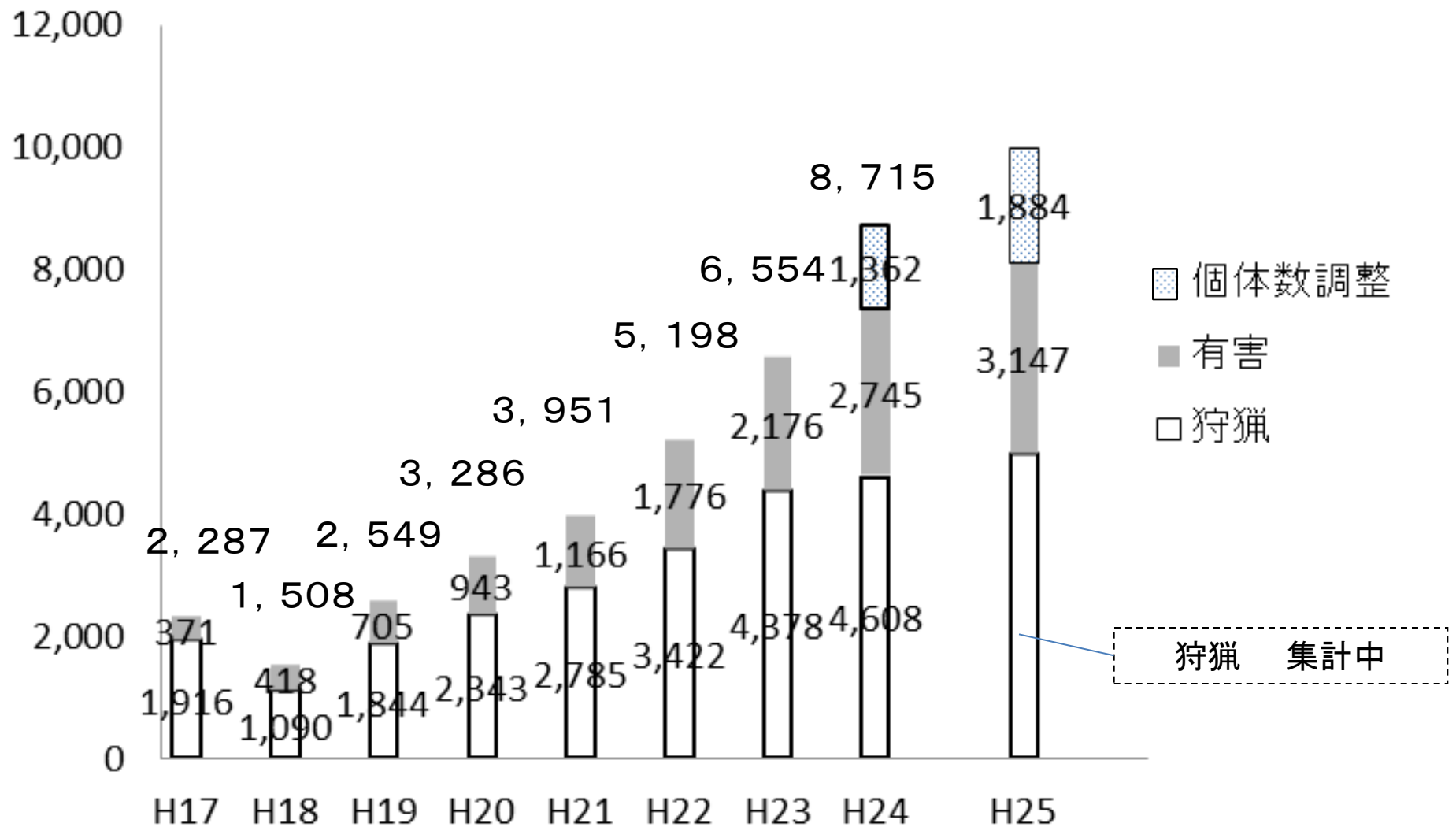
### ○ 平成25年度からの継続

- ・ 県全域でのシカによる森林被害調査手法に関する研究
- ・ 捕獲イノシシから採取された遺伝子解析及び齢査定
- ・ 地域ぐるみの被害対策支援と防除手法の検証・指導
- ・ 公開講座を活用した人材育成
- ・ 狩猟者意識調査の実施

### ○ 平成26年度からの新規

- ・ 誘引誘導型捕獲法の普及
- ・ 演習形式による人材育成プログラムの実践
- ・ イノシシ等の管理マップの作成

# ＜参考＞ニホンジカ捕獲内訳



## カワウ被害対策指針の作成

カワウは、県内各地域で水産振興上の大きな問題となっており、県全体での広域的な取組が必要。そこで県が主体的に対処方針を作成し、漁協の取組を支援する。

※山梨県や滋賀県等では、指針に基づく取組が行われている

●関係者(県、漁協、河川管理者、専門家)による協議

●正確なカワウ生息羽数の把握

●被害状況の把握

●県内駆除状況の把握



被害対策指針(案)  
の策定



- ★具体的目標の設定  
(被害軽減のため必要な、ねぐら解消数・駆除数を設定)
- ★効果的な対策の実施  
(被害状況から優先的に駆除活動をする地域を特定)

# 3. 獣肉利活用の促進

「ぎふジビエ衛生ガイドライン」に基づき解体処理が行える施設の拡大とともに、獣肉(ジビエ)の消費拡大に向けた啓発活動を実施

## 獣肉処理流通モデル事業 (県単、2,000千円)

- ◆県内2事業者を選定し、施設整備に係る補助を実施

## 獣肉加工・消費拡大促進事業 (県単、3,400千円)

- ◆解体処理技術に関する講習
- ◆県産ジビエの消費拡大に向けた取組

### ※25年度の状況

- ◎ジビエ料理フェアの開催(12月)
- ◎料理教室の開催(1月)
- ◎イベントを活用した消費拡大(随時)



料理教室(岐阜市、31人参加)



シカ肉のロールケーキ仕立て(膳)



シカ肉のラゲータスタ  
(ミジョテ)

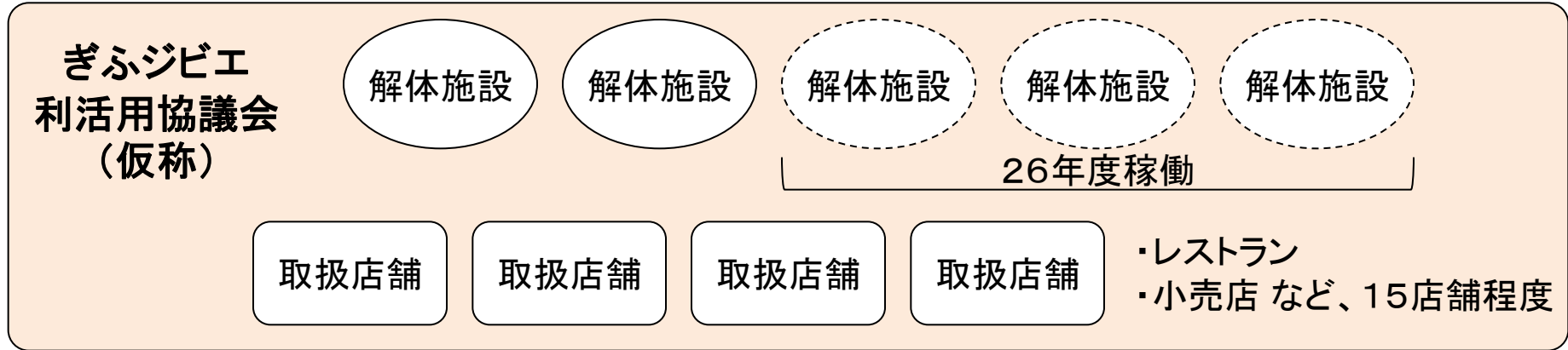


イノシシ鍋(すぎ山)

ジビエフェア  
(岐阜市、関市、468人)

# ぎふジビエ民間ネットワークの立ち上げ

「ぎふジビエ」(ガイドラインに基づき解体処理を行った獣肉)を扱う処理施設や店舗が集まって民間のネットワークを組織し、販売を展開する仕組みを構築



◎流通販売、付加価値向上に向けた戦略  
について調査研究、情報交換を実施

◎協議会が中心となり、消費拡大に向けた  
取組等を実施

⇒ 解体技術講習会、調理講習会

⇒ ぎふジビエフェア

⇒ 首都圏におけるぎふジビエ試食・商談会

◎「ぎふジビエ登録制度(仮称)」に向けた  
取組

- ・「ぎふジビエ」を取り扱う解体処理施設、加工品製造施設、飲食店、販売店等を登録する制度を研究
- ・「県産品愛用推進宣言の店指定制度」や「飛騨・美濃すぐれもの認定」など、既存の制度の活用も検討

【27年度以降】

登録店舗に対する登録証、看板の発行